

高等学校芸術科（書道）採点基準

3枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 (例)		採 点 上 の 注 意	配 点		
問一	ア	せんそうぼん		各 2 × 3		
	イ	いんじょく				
	ウ	かんとく				
問二	ア	人差し指と中指の二本を筆管に掛けた筆の持ち方。	内容を正しくとらえていれば、 表現は異なってもよい。	各 4 × 3		
	イ	手本の筆意や結体を基に、別の文字を素材にして作品を作る こと。				
	ウ	印を押すときに使用されるL字型またはT字型の定規。				
問三	ア	提腕法		各 3 × 3		
	イ	拓本				
	ウ	油煙墨				
問四	a	泰山刻石	鍾鼎文 もよい。	各 3 × 5		
	b	小篆				
	c	孫過庭				
	d	金文				
	e	六書				
問五	ア	歐陽詢		3		
	イ	a			帝	各 2 × 5
		b			霧	
		c			明	
		d			還	
		e			情	
問六	ア	音		各 3 × 5		
	イ	万葉仮名				
	ウ	男手				
	エ	草仮名				
	オ	女手				
問七	ア	継色紙		各 3 × 2		
		寸松庵色紙				
	イ	流動美に重きをおいた書きぶり、字形は全体的に丸みを帯 び、運筆は円転自在で流麗である。線の肥瘦、極端な字間の詰 めや伸長、隣の行との重ねのように、様々な技巧と工夫を駆使 している。	内容を正しくとらえていれば、 表現は異なってもよい。	5		
	ウ	いまははや	4			
エ	安 比 三 武 止	5				
問八	ア	草書のいうにいわれぬ味のあるところは、伝えられたり、教 えられたりするのではなく、学ぶものが自分から体得してい かなければならない。	内容を正しくとらえていれば、 表現は異なってもよい。	各 5 × 2		
	イ	硯の発墨のよいものは必ず筆をすりへらし、筆のすりへら ないものは墨が磨れない。				

一

100

高等学校芸術科（書道）採点基準

3枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 (例)		採 点 上 の 注 意	配 点		
二	問一	<ul style="list-style-type: none"> <li>・力強く、たくましく書く。</li> <li>・点画は角張り、起筆・収筆は明確に書く。</li> <li>・はねの部分用力強く書く。</li> <li>・横面の方向は右上がり強く書く。</li> <li>・直線的に太く書く。</li> <li>・転折を強調して書く。</li> </ul>	3つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各 2 × 3		
	問二	「題材(言葉)」 夢に向かって踏み出そう	問いを正しくとらえていれば、内容は異なってもよい。	1 4		
		「表現したいイメージ」 粘り強く前に進んでいくイメージ				
		「基にする書跡名」 争坐位文稿				
「書跡を選んだ理由」 前に進んでいくイメージを表現するために動きのある行書の書跡を選んだ。また、行書の中でも争坐位文稿は力強く粘り強い表現で書かれており、重厚な線質は「踏み出そう」という自分の強い思いを表現するのに適していると考えたから。						
問三	<p>創造的に表現された書の作品はもちろんのこと、題材とする詩文や和歌、俳句などの作品にも原則として著作権があり、他者の詩文や和歌、俳句などを題材として書の作品を表現する場合には、原則として著作権者の了解が必要となる。ただし、授業で利用する場合は例外とされ、一定の条件を満たす場合には著作権者の了解を得る必要はないとされている。しかし、他者の著作物を題材とした生徒作品をホームページなどに掲載したり、授業とは無関係に展覧会に出品したりする場合は、例外となる条件を満たさないことになる。</p>		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	2 0		
三	次	配当 時間	学習活動	指導上の留意事項	問いを正しくとらえていれば、内容は異なってもよい。 学習活動と指導上の留意事項が対応しているものだけを正答とする。	4 0
	一	1時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「蘭亭序」を鑑賞し、特徴を理解する。</li> <li>・「蘭亭序」と王羲之について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆路がはっきりし、線が伸びやかであることを理解させる。</li> <li>・抑揚を利かせた用筆や、筆脈により自在に変化する文字の姿に着目させる。</li> <li>・「蘭亭序」と王羲之について逸話なども交えながら説明し、興味・関心を高めさせる。</li> </ul>		
	二	2時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行書の特徴を理解する。</li> <li>・「天朗」を半紙に臨書する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行書の特徴を思い起こし、運筆法や筆路を理解させる。</li> <li>・点画のつながりを意識しながら、和らぎのある運筆で臨書させる。</li> </ul>		
	三	3時間	「天朗気清恵風和暢」を半切二分の一に2行書きで臨書する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨書する文字を観察し、筆脈と抑揚、それに伴う点画の丸み、連続や省略、筆順の変化を確認させる。</li> <li>・筆脈や筆圧により生じる線の太細の変化や抑揚を意識して臨書させる。</li> </ul>		
四	2時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の構成について理解する。</li> <li>・「天朗気清恵風和暢」を清書し、自己評価する。</li> <li>・清書作品を鑑賞する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙面と文字の調和を図るために、文字の大きさとその配列、余白との関係に配慮する必要があることを理解させる。</li> <li>・「蘭亭序」の特徴を理解し、自己の作品と比較しながら筆脈や全体の構成に気をつけて清書させる。</li> <li>・お互いの作品を鑑賞し、言語活動を通して、感じたことを言葉で表現し、考えを伝えあい深めさせる。</li> </ul>			

高等学校芸術科（書道）採点基準

3枚のうち3

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 (例)	採 点 上 の 注 意	配 点
四	<p>指導に当たっては、用筆・運筆から生み出される「表現性」とそこから生じる「表現効果」や「風趣」との関わりについて考えさせられるよう留意することが必要である。表現においては、思いや感興、意図に応じて最適に「表現性」を働かせ、「表現効果」を意図して構想しながら、表現を工夫できるよう、鑑賞においては、書の「表現性」と「表現効果」との関わりから書を読み解くことを意識できるよう指導を工夫することが重要である。</p>	<p>内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。</p>	20